



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

2023年度 業務報告会

# 電子カルテ委員会 活動報告

2024年2月13日  
電子カルテ委員会  
委員長 岡田 靖士

- 今年度の事業計画
- 今年度の活動状況、成果
  - 活動実績サマリ
  - JAHIS標準類の策定と各学会との連携
    - 患者安全ガイド専門委員会
    - 患者安全ガイド輸血編WG
  - ePath実装ガイド策定WG
  - JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携
- 来年度の事業計画

### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・ JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド〈内服外用編〉、患者安全ガイド〈注射編〉の改定に向けて検討を開始する。
- ・ 日本輸血細胞治療学会との連携継続
- ・ 第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて発表

### (2) クリニカルパスの標準化に向けた検討

- ・ 2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて2022年度に立ち上げたePath実装ガイド策定WGにて実装するためのポイントを整理した実装ガイド等のJAHIS技術文書の制定を行う。技術文書の作成にあたり医療情報学会／クリニカルパス学会と連携した対応を進める。

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

#### ・データヘルス集中改革プランへの対応

- ・ 医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)については来年度に予定されている情報の拡充、電子処方箋の仕組み(ACTION2)については今年度の運用開始および来年度の安定運用に向けて、それぞれが円滑に医療機関に導入され普及していくように、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申を行う。

#### ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討

- ・ 電子カルテ情報の標準化及び全国医療情報共有プラットフォームの実現に向けて、厚生労働省を含めた関連各所との議論を通し、現状で対応できることや課題の整理と見解の作成、そして電子カルテおよびその周辺システムとしてに実装すべき機能について検討を行い、意見具申を行う。

### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド(輸血編)Ver.2.1(現バージョン)について日本輸血・細胞治療学会と連携し改版(Ver.2.2)を検討中。
- ・第71回 日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナーにて講演
- ・第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会 定時総会において病理編をご紹介
- ・第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて講演
- ・好生館シンポジウムにて講演

### (2) クリニカルパスの標準化に向けた検討

- ・2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて、ePath実装ガイド策定WGを創設し実装ガイド等のJAHIS技術文書の制定に向けた対応を開始
- ・10月に国内標準化委員会にてご承認をいただき制定  
「JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0」として11月に正式公開

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

- ・データヘルス集中改革プランへの対応
  - ・医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)および電子処方箋の仕組み(ACTION2)について、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申、各種課題を整理し、委員会内・外で情報共有を実施。
- ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討
  - ・各種検討会への参加
- ・その他
  - ・外部団体との研究会等への参加
  - ・関連機関からのヒアリング調整依頼や情報共有依頼への対応
  - ・各種資料共有

### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド(輸血編)Ver.2.1(現バージョン)について日本輸血・細胞治療学会と連携し改版(Ver.2.2)を検討中。
- ・第71回 日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナーにて講演
- ・第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会 定時総会において病理編をご紹介
- ・第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて講演
- ・好生館シンポジウムにて講演

### (2) クリニカルパスの標準化に向けた検討

- ・2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて、ePath実装ガイド策定WGを創設し実装ガイド等のJAHIS技術文書の制定に向けた対応を開始
- ・10月に国内標準化委員会にてご承認をいただき制定  
「JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0」として11月に正式公開

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

- ・データヘルス集中改革プランへの対応
  - ・医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)および電子処方箋の仕組み(ACTION2)について、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申、各種課題を整理し、委員会内・外で情報共有を実施。
- ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討
  - ・各種検討会への参加
- ・その他
  - ・外部団体との研究会等への参加
  - ・関連機関からのヒアリング調整依頼や情報共有依頼への対応
  - ・各種資料共有

- リーダー： 坂西裕（富士通Japan）
- WG開催： 2023年4月18日～（10回開催）
  - 活動内容
    - 患者安全ガイド(輸血編)のV2.2への改版に向けての検討
      - 輸血業務におけるコンピュータクロスマッチに関する機能要件の整理と取りまとめ(24年4月改定を目標)
- 学会との連携
  - 日本輸血細胞治療学会
    - 安全委員会病院情報システム小委員会への参画
    - 日本輸血細胞治療学会第71回学術総会サテライトセミナーへの講師派遣(23年5月10日)



- ・第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて講演
- ・好生館シンポジウムにて講演
- ・(予定)  
「標準クリニカルパスを用いた  
医師の働き方改革シンポジウム」

### 6. 電子カルテ情報の統一化と共有

6月24日(土) 9:00~10:30

座長：楠岡 英雄（国立病院機構 理事長）

(1) 「医療情報分野における厚生労働省の取組み」

田中 彰子（厚生労働省医政局参事官（特定医薬品開発支援・医療情報担当））

(2) 「電子カルテを介した医療健康情報の共有のために ～インフラ構築とともにコンテンツの充実を～」

渡邊 直（医療情報システム開発センター 顧問）

(3) 「電子カルテ情報の統一化と共有に向けた現状と課題についてーベンダーの立場よりー」

岡田 靖士（保健医療福祉情報システム工業会 医療システム部会 電子カルテ委員会 委員長）

<https://site2.convention.co.jp/jhm2023/program/>

<https://site2.convention.co.jp/jhm2023/>

## 第25回医療マネジメント学会学術総会の講演資料



### 目次

- 当会(JAHIS)について
- 電子カルテ情報の統一化と共有に向けた当会の取り組みについて
- ベンダーから見た標準化の課題について
- 標準化の対応状況と今後について
- まとめ



## 第25回医療マネジメント学会学術総会の講演資料



### 2020年にJAHIS2030ビジョンを発表

我が国の課題の解決に情報技術を活用して貢献していくため  
このビジョンに沿って取り組みを進めております



一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

## 第25回医療マネジメント学会学術総会の講演資料



### JAHIS標準類

- JAHISでは作成する標準類を下記の2区分に分けて、制定
  - ① JAHIS標準 … 技術的標準として定めた文書  
データ交換規約、記述仕様やガイドライン、規格など
  - ② JAHIS技術文書 … JAHIS標準に準ずる文書  
実装ガイドなど取り扱うにあたっての解説書など
  
- 1999年10月に「JAHIS臨床検査データ交換規約<オンライン版>」を制定
  
- これまでに制定した文書数
  - ① JAHIS標準 … 制定文書数 102、現在有効な文書数 36
  - ② JAHIS技術文書 … 制定文書数 67、現在有効な文書数 28

JAHISとして標準化に積極的に取り組んできた

### 第25回医療マネジメント学会学術総会の講演資料



### 厚生労働省標準規格

- 保健医療分野の適切な情報化を進めることを目的に制定されてきた
- HL7 FHIRに関する規格(記述仕様)は現時点(2023年6月時点)では**3文書1情報**について制定されている
- 今後の拡充が期待されるが制定には時間がかかるため優先順位をつけて早急な対応が必要
- 日本医療情報学会など各学会、HL7協会、JAHISなどが協力して策定を行っている

**HELICS** 一般社団法人 医療情報標準化推進協議会 (HELICS協議会)  
HEALTH Information and Communication Standards Organization

トップページ | 医療情報標準化指針一覧表 | 入金のご案内 | 標準規格・レポート等の申請 | お問い合わせ

**厚生労働省標準規格について**

厚生労働省は、保健医療分野の適切な情報化を進めることを目的に、厚生労働省標準規格を制定し、その採用を促しています。この施策は厚生労働省の保健医療情報標準化会議で、標準規格のあり方について議論していく過程において、地域医療連携（地域医療情報連携）の円滑な推進や、膨大な人的・経済的負担を低減するのみでなく、保健医療分野の適切な情報化に資することを目的に、医療機関等に対して、厚生労働省標準規格の採用を促していくとの方針が確認されたことに基づき制定されています。

この施策に基づき、厚生労働省は発出する通知により制定された標準規格について、都道府県知事、関係団体に適宜公表を行っているところです。

**厚生労働省通知**

- 「保健医療情報分野の標準規格（厚生労働省標準規格）について」の一部改正について（医政発0324第13号、政統発0324第3号 令和4年〔2022年〕3月24日）
- 「保健医療情報分野の標準規格（厚生労働省標準規格）について」の一部改正について（医政発0326第14号、政統発0326第6号 令和3年〔2021年〕3月26日）
- 「保健医療情報分野の標準規格（厚生労働省標準規格）について」の一部改正について（医政発0521第2号、政統発0521第1号、平成30年〔2018年〕5月21日）

**Contents**

- ▶ トップページ
- ▶ 会長あいさつ
- ▶ HELICS協議会とは 医療情報の標準化とは
- ▶ 医療情報標準化指針一覧表
- ▶ 厚生労働省標準規格について 厚生労働省通知
- ▶ 正会員・理事等名簿
- ▶ 定款・規則等
- ▶ 入金のご案内
- ▶ 標準規格・レポート等の申請
- ▶ 過去のイベント
- ▶ 会議録・計画書・報告書
- ▶ パブリックコメント募集と寄せられた意見等
- ▶ 関連リンク集
- ▶ お問い合わせ

引用元: <http://helics.umin.ac.jp/MhlwTsuuchi.html>

必要となるデータから優先し順次拡充していくことが必要

## 第25回医療マネジメント学会学術総会の講演資料

### まとめ

- JAHISとしては2030年に向けて「データ循環型社会」を目指し、まずは「健康・医療・介護データ利活用基盤」の構築を目指している
- 以前よりデータの標準化に継続して取り組んできており、JAHIS標準、JAHIS技術文書という形で資料をまとめ、公開している
- ベンダは標準化の流れを前向きに捉え、JAHISにて推進してきた
- 各ベンダは2022年の診療報酬改定を機に標準規格(FHIR)への対応を進めてきている
- 国の目指す「全国医療情報プラットフォーム」「電子カルテ情報共有サービス(仮称)」の実現に向けて、今後も積極的に標準化に取り組んでいきたい



### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド(輸血編)Ver.2.1(現バージョン)について日本輸血・細胞治療学会と連携し改版(Ver.2.2)を検討中。
- ・第71回 日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナーにて講演
- ・第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会 定時総会において病理編をご紹介
- ・第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて講演
- ・好生館シンポジウムにて講演

### (2) クリニカルパスの標準化に向けた検討

- ・2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて、ePath実装ガイド策定WGを創設し実装ガイド等のJAHIS技術文書の制定に向けた対応を開始
- ・10月に国内標準化委員会にてご承認をいただき制定  
**「JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0」として11月に正式公開**

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

- ・データヘルス集中改革プランへの対応
  - ・医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)および電子処方箋の仕組み(ACTION2)について、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申、各種課題を整理し、委員会内・外で情報共有を実施。
- ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討
  - ・各種検討会への参加
- ・その他
  - ・外部団体との研究会等への参加
  - ・関連機関からのヒアリング調整依頼や情報共有依頼への対応
  - ・各種資料共有

- リーダー：根来 亮介（SSI）
- WG開催：2023年4月25日～（9回開催）
  - 活動内容
    - JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0の新規制定に向けての執筆、レビュー作業
- 学会との連携
  - 日本医療情報学会・日本クリニカルパス学会合同委員会
    - ePath実装ガイド作成における疑問点の確認等

- 2016年に医療情報学会とクリニカルパス学会の合同委員会を発足し、2018年10月からはAMED研究開発事業「クリニカルパス標準データモデルの開発および利活用」(2018年10月～2021年3月) ※ ePathプロジェクトを実施。 ※JAHISも合同委員会へ参加
- ePathプロジェクトにおいては、パスのデータ要素と構造について検討を行い、そのモデルに則ったパスシステムを構築して、実証4施設から収集されるパスデータを蓄積／分析を行った。
- ePathプロジェクトの成果を元に、「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」(JAMISDP04)がJAMI理事会で承認され、JAMI標準として公開された(最新はVer.1.0.1)
- JAHISとして、各ベンダーが上記のJAMI標準に対応した実装の参考とするガイドを作成するため、「ePath実装ガイド策定WG」を開始した



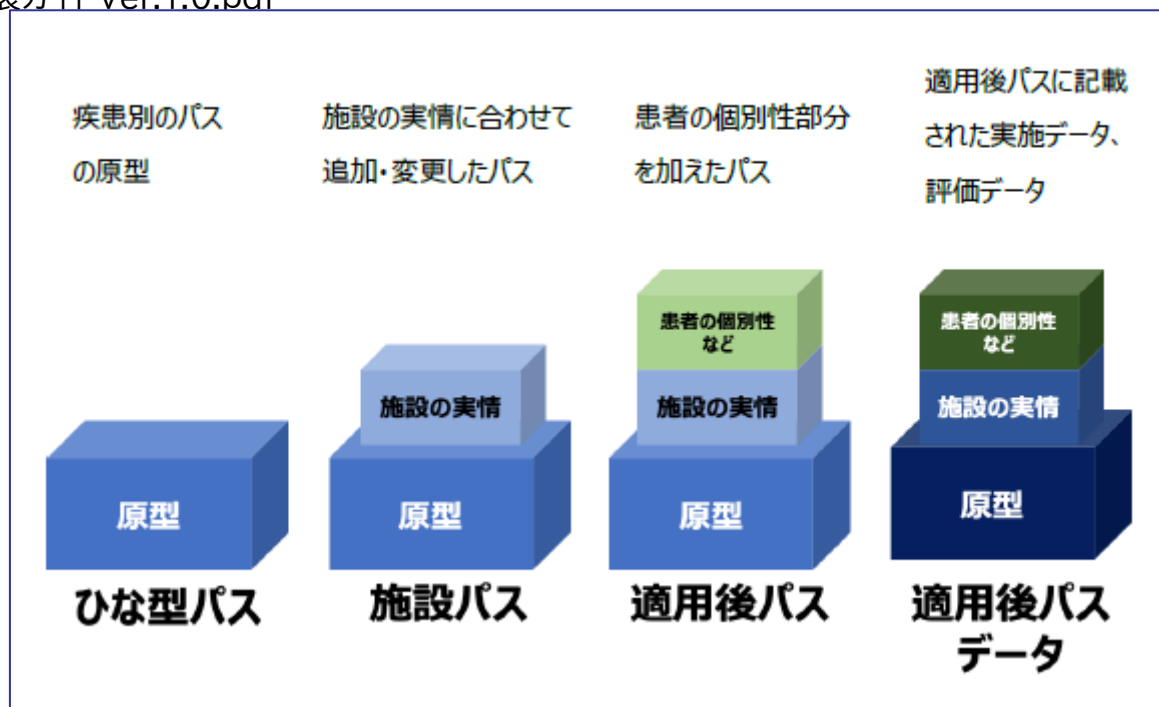
- 本ガイドの目的
  - 2021年に日本医療情報学会(JAMI)標準(として公開された「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」(Ver.1.0.1)を各電子カルテベンダーが齟齬なく理解してePath仕様書に準拠した電子クリニカルパスシステムの開発を進めていくための補助的な役割を担うことを目的に作成
- 本ガイドの構成
  - 1. はじめに
  - 2. 主な用語
  - 3. クリニカルパスおよびePathの概要
  - 4. 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能
  - 5. ePathメッセージの概要
  - 6. ePathのデータ構造と要素の実装

#### • ePathとは

OAT ユニットの基本単位としてパスデータを記述したもので、「ひな型パス」、「施設パス」、「適用後パス」の3種類に分けられる。

ひな型パス	疾患別に定めたパスのひな型。疾患別のパスの原型。
施設パス	「ひな型パス」に施設固有部分を含めたパスで、施設公認のパス。
適用後パス	「施設パス」に患者の個別性部分を加えたもの。患者に適用し、入院日・病日等の日付項目を実日付に展開したパス。

[https://www.jahis.jp/files/user/04\\_JAHIS%20standard/23-102\\_JAHIS%20ePath実装ガイドVer.1.0.pdf](https://www.jahis.jp/files/user/04_JAHIS%20standard/23-102_JAHIS%20ePath実装ガイドVer.1.0.pdf)



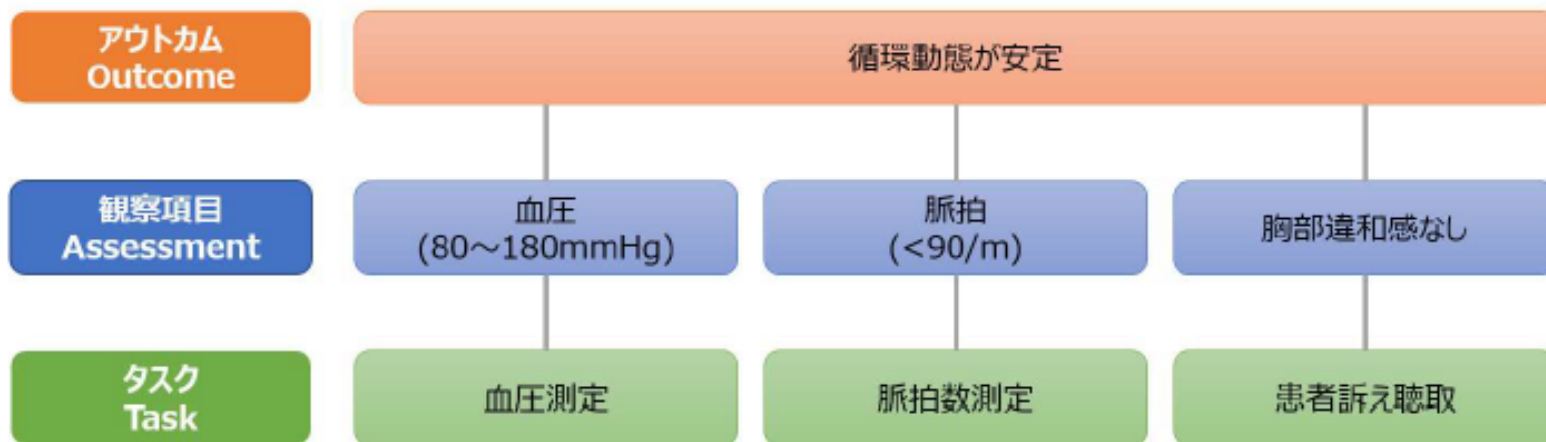
- OATユニットとは

アウトカム、観察項目、タスクを構成要素とし、ePathを記述する基本構造。

アウトカム (Outcome) : 患者の望ましい状態。例) 循環動態が安定している

観察項目 (Assessment) : アウトカムの評価のための判断基準。例) 血圧 (80~180mmHg)、脈拍 (<90/m)、胸部違和感

タスク (Task) : アウトカム達成のために必要な行為、あるいはアウトカムが達成されたかを確認するための行為。例) 血圧測定、脈拍数測定、患者訴え聴取



[https://www.jahis.jp/files/user/04\\_JAHIS%20standard/23-102\\_JAHIS%20ePath実装ガイドVer.1.0.pdf](https://www.jahis.jp/files/user/04_JAHIS%20standard/23-102_JAHIS%20ePath実装ガイドVer.1.0.pdf)

- 「ひな型パス」、「施設パス」、「適用後パスデータ」の内容の変化
  - OATユニットの構成は、「ひな型パス」、「施設パス」、「適用後パスデータ」の間で差異を比較できるように状態遷移を通して一意である必要がある

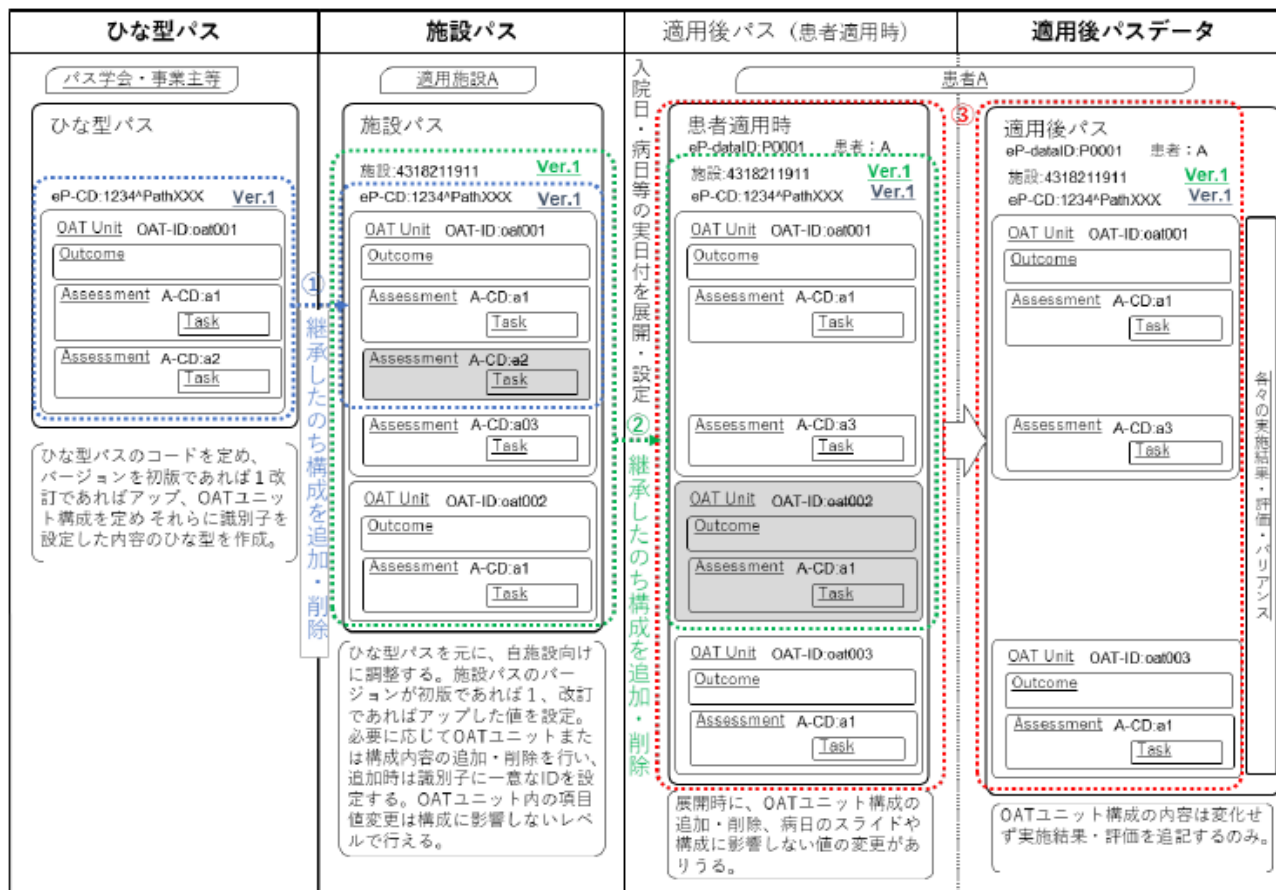
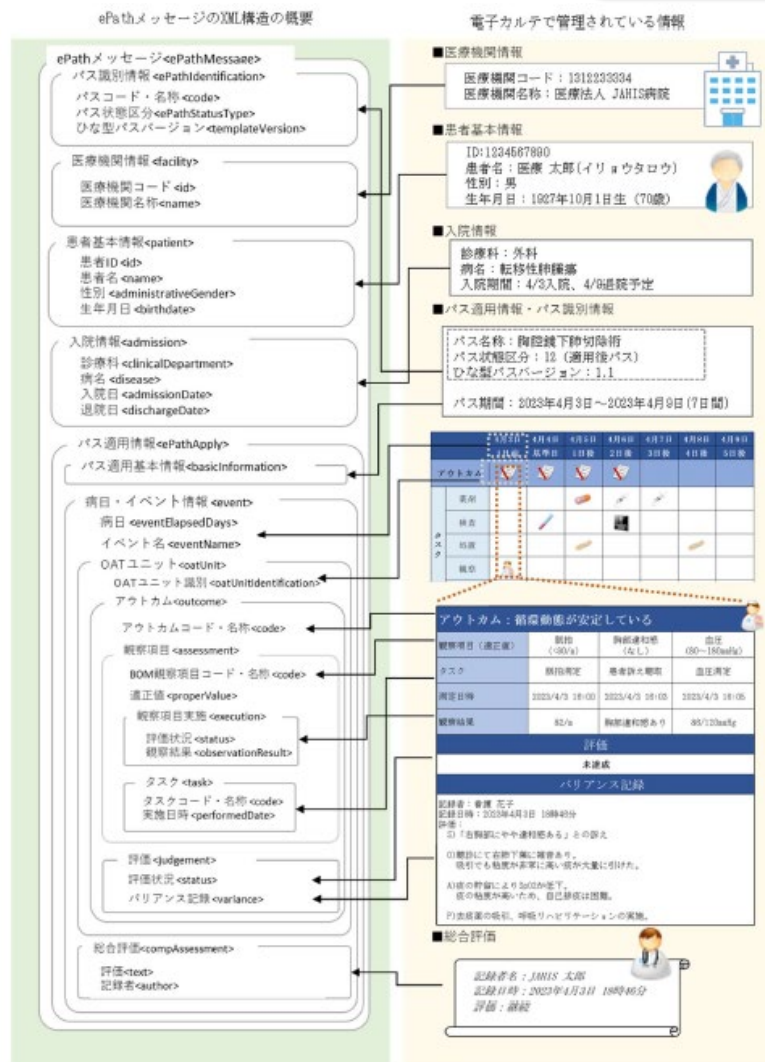


図3 ひな型パス、施設パス、患者適用時と適用後パスデータ

### 第5章

- ePath メッセージと、電子クリニカルパスで管理されている患者情報や入院情報、クリニカルパス情報などとの関連をより分かりやすく示すよう具体的な例を記載している



### 第4章

#### 電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能

- ePath 仕様書で定義されている「ePath メッセージ」を出力するにあたっては、前提となる電子クリニカルパスシステムに求められる構造や機能が存在すします。ePath 仕様書への対応時に(これら前提機能が不足していることによる)大幅な手戻りや改修に陥らないために電子クリニカルパスシステムの設計および開発や改修の際に考慮しておくことが重要と思われたことから、推奨機能として整理しまとめています

表 4-1 ePath に対応するために電子クリニカルパスシステムが備えておくべき推奨機能

No	必須	内容
1	<input type="radio"/>	施設パスに対して、元となるひな型パスの標準クリニカルパスコード、標準クリニカルパス名称、標準クリニカルパスバージョンが管理できること。
2	<input type="radio"/>	施設パスは改版ごとのバージョンを保持できること。
3	<input type="radio"/>	適用後パスにはどのバージョンの施設パスを適用したか保持していること。
4	<input type="radio"/>	パスの適応基準を登録できること。
5	<input type="radio"/>	パス適用時に適応基準を満たしているか確認ができること。
6		パスの病日ごとにイベント名を設定できること。
7		パスの病日を「術前」「術後」のように分割してそれぞれイベント名を設定できること。
8	<input type="radio"/>	病日ごと、または「術前」「術後」のように病日を分割した単位ごとにアウトカムが複数設定できること。
9	<input type="radio"/>	アウトカムの達成/未達成を判定する観察項目を設定できること。
10	<input type="radio"/>	観察項目はアウトカムごとに複数設定できること。
11		観察項目には適正值(基準)が設定できること。
12	<input type="radio"/>	アウトカム、観察項目には日本クリニカルパス学会監修のBOMを採用できること。
13	<input type="radio"/>	アウトカム-観察項目-タスクの関係性をOATユニットとして管理・保持できること。
14	<input type="radio"/>	アウトカムの達成/未達成を評価できること。

No	必須	内容
15		同じアウトカムに対して、1日に複数回アウトカム評価が入力でき、すべての評価内容を保持していること。
16	<input type="radio"/>	アウトカムが達成しない状態をバリエーションと判定できること。
17		バリエーションの判定は観察項目にあらかじめ設定された適正值(基準)による自動判定などで簡略化すること。
18		観察項目に1つでも適正值外があればアウトカム未達成(バリエーション)と判定できること。
19		バリエーション発生時にはバリエーション記録を促す仕組みを備えること。
20	<input type="radio"/>	バリエーション記録はSOAP形式で記録できること。
21		クリティカル・インディケータが識別できること。
22	<input type="radio"/>	病日ごとの医師の総合評価が登録できること。



### 第6章

- 第6章にて具体的な実装の解説を行っています
  - 実装内容をイメージしながら読み進められるようにまずePath仕様書の内容に沿ってデータ構造と項目定義の説明、その次にePathメッセージのXML記述例、及びそれを補足する形の解説が1セットとなるような構成で記載しています

## 「ePathのデータ要素と構造に関する仕様書」の記載 (例:入院情報)

項番	項目	要素・属性名 (先頭@は属性を意味する)	状態別の多重度 (時系列⇒)			値・説明
			疾患別	施設別	適用後	
1-4	入院情報	admission	1..1	1..1	1..1	
1-4-1	診療科	clinicalDepartment		0..*	1..*	診療科を表すコード・名称 付録1. コード一覧「診療科」より設定する。 要素繰り返しの記述で施設等のローカル内で定めたコードを追加で設定してもよい。但し、その場合コード一覧で定める「診療科」は1番目に設定すること。
	コード	@code		1..1	1..1	コード体系に基づく診療科コード
	名称	@displayName		1..1	1..1	コード体系に基づく診療科名称
	コード体系	@codeSystem		1..1	1..1	対応するコード体系 OID 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、OID ではないローカル内で識別できる独自のシンボル値を設定してもよい。

[https://www.jami.jp/wp-content/uploads/2023/11/e-parh\\_Ver.1.0.1.zip](https://www.jami.jp/wp-content/uploads/2023/11/e-parh_Ver.1.0.1.zip)



## 「ePath実装ガイド」の記載(例:入院情報)

取り得る値の例

項目	要素・属性	多重度			値	説明・備考
		ひな型パス	施設パス	適用後パスデータ		
/ePathMessage/admission						
診療科	clinicalDepartment	出力対象外	0..*	1..*		入院情報 診療科を表すコード・名称。付録 1. コード一覧「診療科」より設定する。要素繰り返しの記述で施設等のローカル内で定めたコードを追加で設定してもよい。但し、その場合コード一覧で定める「診療科」は1番目に設定すること。
コード	@code	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合: 例) 10 ローカルコードの場合: 例) 101	コード体系に基づく診療科コード
名称	@displayName	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合: 例) 外科 ローカルコードの場合: 例) 心臓外科	コード体系に基づく診療科名称
コード体系	@codeSystem	出力対象外	1..1	1..1	標準コードの場合: 固定値) 1.2.392.200250.2.2.2 ローカルコードの場合: 例) LOCAL	対応するコード体系 OID 施設等のローカル内で定めたコード体系の場合、OID ではないローカル内で識別できる独自のOIDを設定してもよい。

XML記述例

### XML 記述例

```
<clinicalDepartment code="10" displayName="外科" codeSystem="1.2.392.200250.2.2.2"/>
<clinicalDepartment code="101" displayName="心臓外科" codeSystem="LOCAL"/>
```

### 解説

診療科は入院時の診療科を設定する。

標準コードの場合、コード値、名称は、「SS-MIX2 統一診療科コード表 V1.0」(#0069 診療部門) で定義された 2 ケタ科および 2 ケタ名称を用いる。  
SS-MIX2 統一診療科コード表 V1.0 (#0069 診療部門) :

[https://www.jamis.jp/jamistd/docs/SS-MIX2/h/SS-MIX2\\_StdndStrgSpecVer.1.2hCodeTable.pdf](https://www.jamis.jp/jamistd/docs/SS-MIX2/h/SS-MIX2_StdndStrgSpecVer.1.2hCodeTable.pdf)

ローカルコードの場合は、施設等のローカル内で定めたコード値、名称を用いる。

解説

### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド(輸血編)Ver.2.1(現バージョン)について日本輸血・細胞治療学会と連携し改版(Ver.2.2)を検討中。
- ・第71回 日本輸血・細胞治療学会学術総会におけるサテライトセミナーにて講演
- ・第21回日本デジタルパソロジー・AI研究会 定時総会において病理編をご紹介
- ・第25回医療マネジメント学会学術総会のシンポジウムにて講演
- ・好生館シンポジウムにて講演

### (2) クリニカルパスの標準化に向けた検討

- ・2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて、ePath実装ガイド策定WGを創設し実装ガイド等のJAHIS技術文書の制定に向けた対応を開始
- ・10月に国内標準化委員会にてご承認をいただき制定  
「JAHIS ePath実装ガイド Ver.1.0」として11月に正式公開

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

#### ・データヘルス集中改革プランへの対応

- ・医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)および電子処方箋の仕組み(ACTION2)について、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申、各種課題を整理し、委員会内・外で情報共有を実施。

#### ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討

- ・各種検討会への参加

#### ・その他

- ・外部団体との研究会等への参加
- ・関連機関からのヒアリング調整依頼や情報共有依頼への対応
- ・各種資料共有

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

#### ・データヘルス集中改革プランへの対応

- ・医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)に向けた検討会等への参加

- ・電子処方箋の仕組み(ACTION2)については、2023年1月26日の運用開始以降、医療機関への円滑なシステム導入が進み、電子処方箋が普及していくように、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申をおこなっている。また、電子処方箋等の情報を収集して各種課題を整理し、委員会内・外で情報共有を図っている。

#### ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討

- ① 透析情報標準の策定に向け透析情報標準開発技術仕様WGへの参加
- ② リアルワールドデータ研究利活用基盤整備にかかる検討会への参加

### ・その他

- 関連機関からのヒアリング、アンケート等の調整依頼への対応
  - ① 医療情報システムに関する有識者委員会(仮称)に関する募集への対応
  - ② 予防接種事務デジタル化に係るヒアリングのご依頼への対応
  - ③ 支払基金様、医薬局様から電子処方箋の記録条件仕様に関するヒアリング依頼への対応
  - ④ 支払基金様から「オンライン資格確認経由で健診情報を見ることが出来る機能に関するシステム改修」に関する資料のご説明および質疑
  - ⑤ 「ヘルスケアプロセス管理に関する国際標準化と個別化Learning Health Systemアプリケーションの開発研究」におけるヒアリングへのご協力へのお願いへの対応
  - ⑥ 指定難病患者データベース及び小児慢性特定疾病児童等データベースに関する医療機関向け周知資料の共有
  - ⑦ 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン改定作業班に関する情報共有
  - ⑧ PMH関連情報の共有
  
- その他、関係省庁、団体との打合せ
  - ① 各省庁からのレビュー依頼への対応

### (1) JAHIS標準類の策定と各学会との連携

- ・ JAHIS医療情報システムの患者安全ガイド<内服外用編>、患者安全ガイド<注射編>の改定に向けて検討を開始する。
- ・ 日本輸血細胞治療学会との連携継続

### (2) 標準的なデータモデル構築に向けた検討

- ・ 今年度は2021年11月にJAMI標準となったePathメッセージについて2022年度に立ち上げたePath実装ガイド策定WGにて実装するためのポイントを整理した実装のためのガイドとしてJAHIS技術文書の制定を行ったが、来年度はそれらをベースとした標準的なデータモデル構築を目指し医療情報学会／クリニカルパス学会と連携した対応を進める。

### (3) JAHIS内外に対する電子カルテ関連の情報提供・連携

#### ・データヘルス集中改革プランへの対応

- ・ 医療情報を患者や全国の医療機関等で確認できる仕組み(ACTION1)については来年度に予定されている情報の拡充に向けた対応について、電子処方箋の仕組み(ACTION2)については引き続きの安定運用および機能拡充に向けて、それぞれが円滑に医療機関に導入され普及していくように、JAHIS他部門や関連団体と連携して意見具申を行う。

#### ・電子カルテ情報の標準化に向けた検討

- ・ 電子カルテ情報共有サービス及び全国医療情報共有プラットフォームの実現に向けて、厚生労働省を含めた関連各所との議論を通し、来年度開始予定のモデル事業や本稼働に向けた実装を行う中で見つかった課題の整理と見解の作成、そして電子カルテおよびその周辺システムとして実装すべき機能について現実的な解決策を検討し、意見具申を行う。

- 来年度の活動について
  - 制定より時間経過している2ガイドラインのうち、内服外用編から改定作業に着手予定
    - 患者安全ガイド(注射編)13年5月制定
    - 医療情報システムの患者安全ガイドライン(内服外用編)14年11月制定
  
- 日本輸血細胞治療学会との連携継続
  - 安全委員会病院情報システム小委員会への参加継続
  - 第72回学術総会サテライトセミナー(5月)への講師派遣



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

ご清聴ありがとうございました